

平成27年（2015）2月 入域観光客数概況

2月の観光客数は、55万900人
対前年（H26）同月比 +4万7,800人、+9.5%
～外国客が大幅に増加、中国客初の単月2万人超～

入域状況

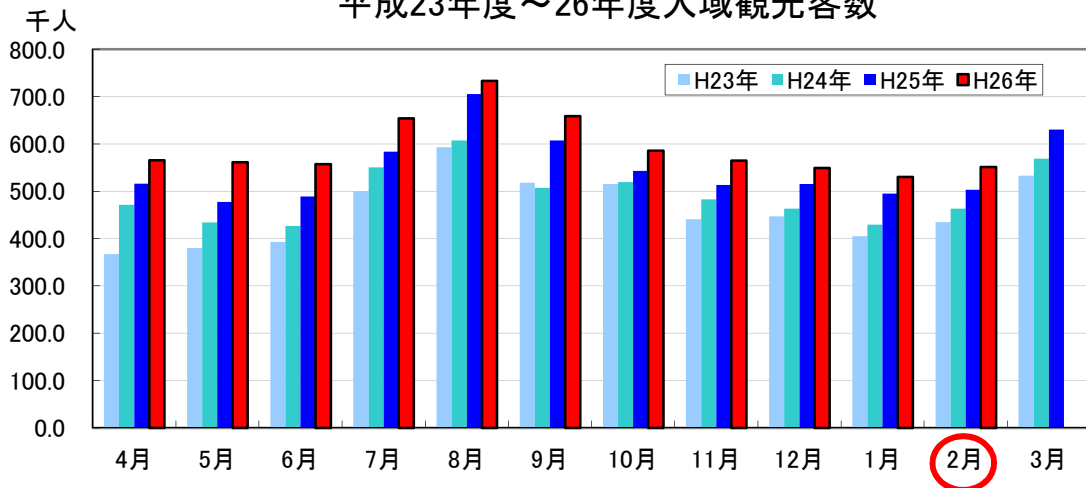
入域観光客数（平成25年度との比較） ※外国客については、乗務員等を含む

区分	H26年度	H25年度	増減数	増減率	構成比
国内客	464,200 人	458,800 人	+ 5,400人	+ 1.2%	84.3%
外国客	86,700 人	44,300 人	+ 42,400人	+ 95.7%	15.7%
合計	550,900 人	503,100 人	+ 47,800人	+ 9.5%	100.0%

【参考】入域観光客数（平成25年度との比較） ※外国客については、乗務員等を除く

区分	H26年度	H25年度	増減数	増減率	構成比
国内客	464,200 人	458,800 人	+ 5,400人	+ 1.2%	84.9%
外国客	82,400 人	41,300 人	+ 41,100人	+ 99.5%	15.1%
合計	546,600 人	500,100 人	+ 46,500人	+ 9.3%	100.0%

平成23年度～26年度入域観光客数



国内客 入域状況

2月は、大雪に伴う航空便欠航のあった前年同月に比べ天候の影響が小さく、プロ野球等の誘客効果もあったものの、スカイマークの運休の影響により、微増となった。離島方面が好調であった。

3月以降は、引き続きスカイマークの運休の影響が懸念されるものの、春休みの旅行需要により、好調に推移する見込み。

外国客 入域状況

2月は、春節・旧正月の旅行需要と日並びの影響により、主要方面からの入込が増加した。特に中国の伸びが大きく、単月初の2万人台を記録した。クルーズ船の寄港により、海路客も増加した。

3月以降は、航空路線の拡充およびクルーズ船の寄港回数の増により、好調に推移する見込み。

国内客 地域別入域状況

区分	H26年度	H25年度	増減数	増減率	構成比
東京方面	225,600 人	227,200 人	△ 1,600人	△ 0.7%	48.6%
関西方面	91,100 人	87,500 人	+ 3,600人	+ 4.1%	19.6%
福岡方面	59,900 人	56,900 人	+ 3,000人	+ 5.3%	12.9%
名古屋	37,400 人	38,900 人	△ 1,500人	△ 3.9%	8.1%
その他	50,200 人	48,300 人	+ 1,900人	+ 3.9%	10.8%
合計	464,200 人	458,800 人	+ 5,400人	+ 1.2%	100.0%

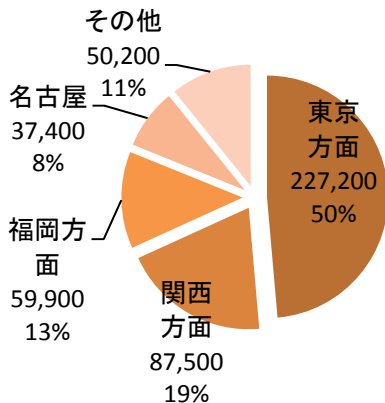
※国内海路客1,900人を含む(鹿児島1,500人、関西100人、横浜300人)

外国客 国籍別入域状況

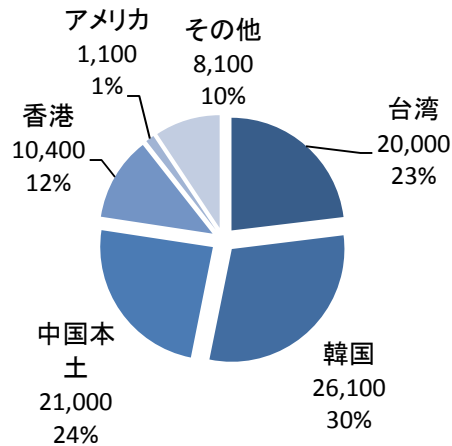
増減数及び増減率は、乗務員等を含む数値の比較

区分	H26年度	H26年度	H25年度	増減数	増減率	構成比
	(乗務員等含む)	(乗務員等除く)	(乗務員等含む)			
台湾	20,000 人	20,000 人	12,900 人	+ 7,100人	+55.0%	23.1%
韓国	26,100 人	26,100 人	15,300 人	+ 10,800人	+70.6%	30.1%
中国本土	21,000 人	21,000 人	3,500 人	+ 17,500人	+500.0%	24.2%
香港	10,400 人	10,400 人	5,900 人	+ 4,500人	+76.3%	12.0%
アメリカ	1,100 人	1,100 人	1,600 人	△ 500人	△31.3%	1.3%
その他	8,100 人	3,800 人	5,100 人	+ 3,000人	+58.8%	9.3%
合計	86,700 人	82,400 人	44,300 人	+ 42,400人	+95.7%	100.0%

国内客の地域構成比



外国客の国籍構成比



外国客 空路・海路の国籍別入域状況

増減率は、乗務員等を含む数値の比較

区分	空路				海路			
	観光客数 (乗務員等含む)	観光客数 (乗務員等除く)	増減率	構成比	観光客数 (乗務員等含む)	観光客数 (乗務員等除く)	増減率	構成比
台湾	20,000 人	20,000 人	+55.0%	26.8%	0 人	0 人	-	0.0%
韓国	26,100 人	26,100 人	+70.6%	35.0%	0 人	0 人	-	0.0%
中国本土	14,700 人	14,700 人	+320.0%	19.7%	6,300 人	6,300 人	皆増	51.6%
香港	10,200 人	10,200 人	+72.9%	13.7%	200 人	200 人	皆増	1.6%
アメリカ	800 人	800 人	+100.0%	1.1%	300 人	300 人	△75.0%	2.5%
その他	2,700 人	2,700 人	+68.8%	3.6%	5,400 人	1,100 人	+54.3%	44.3%
合計	74,500 人	74,500 人	+88.1%	100.0%	12,200 人	7,900 人	+159.6%	100.0%

各方面ごとの概況と見通し

東京

2月は、ANAの羽田－石垣路線の増便等により、離島方面(石垣・宮古)からの入込が増加したものの、成田からの入込は減少し、前年並みとなった。

3月は、多方面との競合があり、前年並みとなる見込み。団体旅行やスポーツイベント、ゴルフトーナメント関連商品が好調。4・5月は、好調に推移する見込み。

大阪

2月は、伊丹空港と関西空港からの入込が増加し、前年度を上回った。神戸－那覇路線でスカイマークの運休があり、方面全体の伸びはやや鈍化した。離島方面は宮古が好調のよう。

3月は、旅行商品の販売が苦戦しているものの、4月以降は早期割引等の効果もあり好調に推移する見込み。

福岡

2月は、団体・個人旅行ともに好調であり、出発間際に旅行商品の販売が伸びる傾向があったことから、前年度を上回った。スカイマーク運休の影響は、あまり顕著ではない。

3月以降は、予約状況は悪くないものの、春休みの学生・卒業旅行等で他方面(関西・関東)との競合が懸念されている。

名古屋

2月は、市場の動きが鈍く、スカイマークの減便の影響もあり、前年度を下回った。

3月以降は、春休みの旅行需要により予約状況は好調である。路線初のLCCであるジェットスターの新規就航も予定されているが、スカイマークの減便等の影響により、方面全体の提供座席は前年より減少しているため、大幅な増加は難しいと予想される。

台湾

2月は、引き続き訪日旅行が人気であり、春節の旅行需要もあり、前年度を上回った。高雄－那覇路線に華信航空の定期便が就航した(週2便)。

3月以降は、スタークルーズが例年より1ヶ月早く運航を開始するほか、航空路線の増便やチャーター便の就航も予定されていることから、空路海路ともに増加する見込み。

韓国

2月は、旧正月連休や春休みによる旅行需要と航空路線拡充の影響により、大幅に増加した。旧正月中のチャーター(ソウル－宮古、ソウル－石垣、釜山－那覇)はいずれも好調であった。

3月は、オフシーズン(新学期、連休なし)にあたり、アジアナ航空やジンエアーの減便が予定されていることから、冬場より鈍化が予想されるものの、堅調に推移する見込み。

中国本土・北京

2月は、春節の旅行需要の高まりにより、空路客が大幅に増加した。西安－那覇路線で首都航空のチャーター便が就航したことから、今後中国内陸部からの入込が期待できる。

3月は、春節後の落ち込みがあるものの、前年同月に比べ航空路線が拡充していることから、空路客を中心に増加する見込み。

中国本土・上海

2月は、春節の旅行需要と日並びの影響、航空路線の拡充およびクルーズ船の寄港により、空路海路ともに大幅に増加した。春節には、チャーター便(福州－那覇)の就航があった。

3月以降は、引き続き航空路線の拡充の影響により、空路客が増加する見込み。クルーズ船の寄港が予定されていることから、海路も好調に推移する見込み。

香港

2月は、春節とピーチアビエーションの香港－那覇路線の新規就航により、団体旅行・個人旅行ともに好調に推移し、前年同月を上回った。

3月以降は、夏場に向け需要が高まり、ピーチアビエーションの新規就航により空路客の増加が期待出来ることから、順調に増加する見込み。